

津山郷土博物館だより「つはく」

# 津博

TSUHAKU

2022.2 No.111

## トピックス

- 館藏品ギャラリー  
「永礼孝二・日下賢二の木版画」展を開催
- 第123回文化財めぐり
- 小学生の見学
- ミニ企画展を開催

## 資料紹介

- 動物園にヒョウがいた  
—松山政春が描いた日本画から—  
小郷 利幸

## お知らせ

- 企画展  
「郷土の刀剣 —新刀から現代刀まで—」を  
開催中



津山郷土博物館

Tsuyama City Museum

(庄野ヒカル 郷土玩具(虎))

## 館蔵品ギャラリー 「永礼孝二・日下賢二の木版画」展を開催

永礼孝二（明治34～昭和51年）と日下賢二（昭和11～令和2年）は、いずれも津山市志戸部出身の版画家で、日下は永礼などが主催する絵画夏季講習会に参加したのがきっかけで版画の道に進み、その後は抽象画の独特な世界へと進みます。二人の版画や版木などを展示しました。

【会 期】令和4年1月14日(金)～2月13日(日)

【会 場】当館3階展示室の一部

[展示品] 永礼孝二

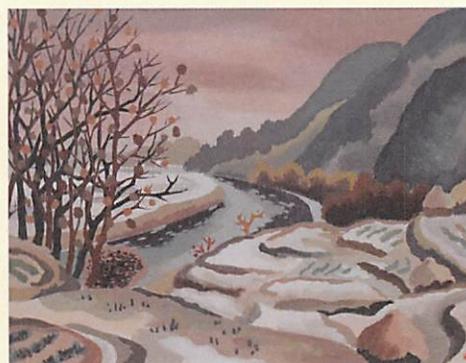
- ◎名古屋城 (昭和13年)
- ◎たけのこ (昭和28年)
- ◎佐良山風景 (昭和31年)
- ◎小諸城跡 (昭和46年)
- ◎小諸城跡(版木) (昭和46年)
- ◎雪景(海) (制作年不詳)
- ◎版画集第二輯 (制作年不詳)

[展示品] 日下賢二

- ◎ヤブカンゾウ (昭和25年)
- ◎ランプ (昭和26年)
- ◎ランプ(原画) (昭和26年)
- ◎津山風景 (昭和31年頃)
- ◎作品23 (昭和40年)
- ◎飛翔85-3 (昭和60年)



名古屋城



佐良山風景

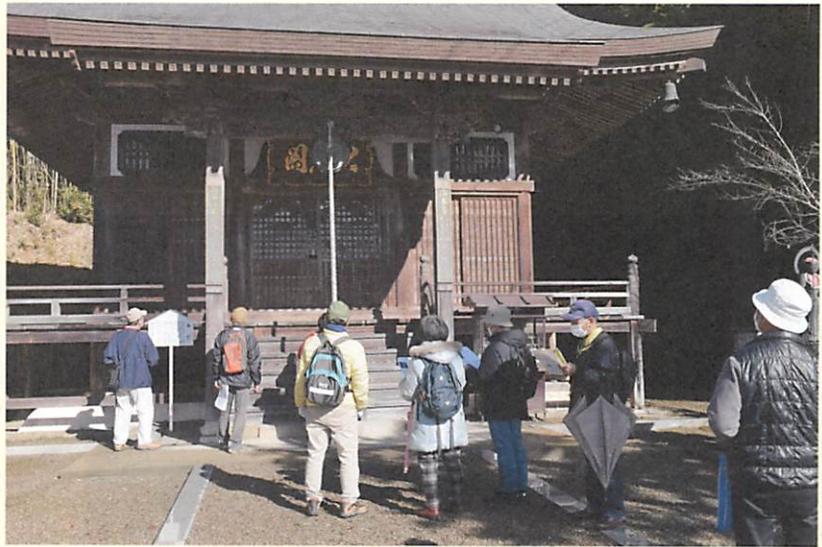


展示風景

## 第123回文化財めぐり ～広野地区の文化財をめぐる～

広野公民館—清瀧寺—近長丸山古墳群—田熊の舞台—広野公民館（参加者11名）

令和3年11月27日(土)津山市内広野地区の文化財を中心にめぐりました。当日は小雨の降るあいにくの天気でしたが、清瀧寺では、広大な寺域内にある仁王門や本堂、延文5(1360)年に建てられた宝篋印塔などを見学し、近長丸山古墳群は調査後消滅しているため、古墳のあった場所を望める道中で解説しました。同1号墳は直径20m程の円墳ですが、葺石がめぐり中心にあった



清瀧寺

木棺から鏡と勾玉、剣が出土しているため、被葬者は周辺地域を治めた首長層と考えられます。古墳はちょうど東西の街道筋を望める低丘陵頂部に造られています。これら出土品は、本館で現在展示中です。最後に行った田熊の舞台は、山上の八幡神社境内にあるため、そこへ至るかなり急な登り坂が、最後に立ちほだかりました。なんとか全員無事に到達し、明治4(1871)年に作られた農村歌舞伎の舞台を見学しました。回り舞台もある本格的なもので国の有形民俗文化財に指定されています。当日は、全行程6kmほどを無事にめぐりました。

## 小学生の見学

新型コロナウイルス感染予防のため、8月20日(金)から9月30日(木)まで閉館しました。10月1日(金)に開館すると、12月にかけてたくさんの小学校6年生が見学に来てくれました。歴史は現在の私達と無関係ではなく、過去を生きたたくさんの人々がいるからこそ現在の私達がいるということを、実物の資料を通して感じてもらえたらと願っています。



## ミニ企画展 「むかしむかしの子どもたち」を開催しました。

11月27日(土)～12月19日(日)まで、ミニ企画展「むかしむかしの子どもたち」を開催しました。『美作孝民記』の挿絵を中心に、江戸時代における子どもの生活の一部を紹介、髪型や服装などにも着目して展示しました。展示を見た小学生達は、「こんな髪型じゃったん?」などと江戸時代の子ども達の絵に興味深く見ていました。



展示風景



「むかしむかしの子どもたち」チラシ

## ミニ企画展 「お正月一虎一」を開催しました。



河井達海「サーカスの虎」

12月25日(土)～令和4年1月10日(月)まで、短い期間でしたが、干支にちなんだミニ企画展を開催しました。津山出身の画家である河井達海、庄野ヒカル、田外白鷺が描いた虎の絵など、おめでたい資料を展示しました。



展示風景

# 動物園にヒョウがいた — 松山政春が描いた日本画から —

まつやまささはる

小郷 利幸

## はじめに

ここにヒョウ(豹)を描いた1枚の日本画があります(写真①)。これは松山政春(1911~1989)が描いたものです。彼は京都市出身で、京都絵画専門学校卒業後、兵庫県教員をへて、岡山県職員となり退職後は絵画活動をおこない、美作女子大学講師、県北日本画協会会長などを歴任され、日展入選など活躍されています。令和3(2021)年にご息からこの絵をいただきました。この絵は現美展(岡山)で賞をとった時の絵で、お部屋の壁面に飾ってありました。

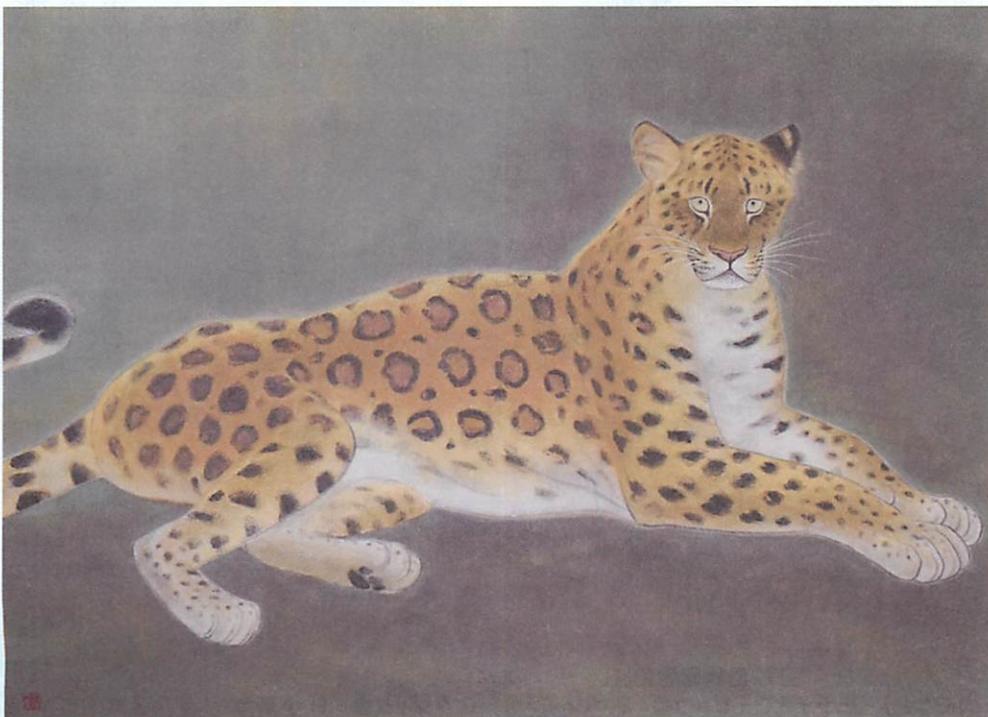
旧津山市立動物園にヒョウがいたことを皆さんご存知でしょうか。この絵の紹介にあわせて鶴山公園内の動物園にヒョウがいた歴史についても簡単にまとめてみたいと思います。

## 作品の紹介

絵は、横130cm、縦97cmの大きさで、立派に額装され、薄暗い背景に、地面に伏せこちらを向くヒョウのほぼ全体像を描いています。りりしい顔の表情から体の模様、足の裏や部分的なしっぽの細部にいたるまでとてもリアルで、ヒョウが引きたちます。

左下に「政」のサインがあります。

息子さんの話によると当時鶴山公園西側の千石坂(津山城築城当時からある道)近くの行啓道路沿いにある家があり、特に動物園の動物を好んで描いていたそうで、ご自宅にはヒョウ以外に鳥などを描いた絵が数点飾られていました。ヒョウを描くために毎日のように動物園に通ったそうです。そのため、このヒョウはより正確に描かれているものと思われれます。ただ製作年はわからないようです。ヒョウがいた時期がわかれば、製作年もある程度わかるのではないかと思います。ヒョウはネコ科ヒョウ属で、アフリカ大陸から東南アジアなど、寒帯から熱帯の広範囲に生息します。寒い季節にも対応できるため、津山の風土にも適していたと思われます。ちなみにネコ科の中でよく似ているチーターとヒョウは背中などの模様などが大きく違って、絵に描かれている模様はヒョウの模様、いわゆるヒョウ柄を忠実に描いています。



写真① 豹

旧津山市立動物園について

次に旧津山市立動物園の歴史についてみてみます。津山市史(第7巻現代Ⅱ)の年表によると、動物園は昭和30(1955)年に開設されています。場所は津山城跡三の丸の鶴山館に隣接する所でした。ただ昭和27(1952)年度版津山市勢要覧(昭和26年中の事を記載)に「鶴山館の傍らに動物園を設けて子供の遊園地となし…」との記述がすでにあること、さらに近代日本の動物園研究(註1)によれば、戦後に地方自治体により開設された動物園の一つとして、日本動物園水族館協会の要覧を引用し、昭和26年に本動物園が開設されたと紹介されています。ちなみに同年に開園した動物園には、神戸市立王子動物園や札幌市円山動物園などがあります。また、昭和29年の『津山市広報』で、「年次計画をもって動物を購入し、…(省略)…動物園建設計画は着々と進捗しています。」とあります。これらの事から、昭和30年以前に、少なくとも昭和26年頃には動物園的なものがあり、計画的に整備されたことがわかります。

最初にヒョウの記事が見られるのは、昭和30年4月の『広報つやま』にヒョウの写真が掲載され、さらに昭和32(1957)年版津山市勢要覧(昭和31年12月現在)には動物飼育状況として、ヒョウ2匹のほかペンギンやニホンザルなど39種類214匹の動物たちがいたことが記されています。翌年の昭和33(1958)年版(昭和32年

12月現在)ではライオンなどが新たに加わり、51種類302匹にかなり増えて本格的な動物園となっています。当時は県北の動物園としては珍しく、親子づれや観光客の憩いの場として親しまれ昭和31年で年間37



図① 津山城パンフレット

図② 動物園舎配置図

B.鶴山館 D.水禽舎(白鳥・カモなど) E.ライオン・ヒョウ舎 F.ペンギン舎 G.クジャク舎 H.小鳥舎 I.サル舎

万人あまりの来場者があり、鶴山公園は、令和元年度で約18万人の来場者ですので、いかに盛況であったかわかります。少なくともヒヨウについては、昭和30年頃にはすでにいたようで、さらに昭和41(1966)年4月の『広報つやま』にヒヨウの記事が掲載されていて、この時期にもヒヨウの親子(註2)がいたことがわかります。

動物園開設後の昭和38(1963)年に津山城跡が国の史跡になりました。史跡指定後の「津山城」のパンフレット(図①)に動物園舎の配置図(図②)があります。そこにはペンギンやサル、クジャク舎のほかライオン・ヒヨウ舎(図②-E)が書かれていて、場所も特定され、さらにこの時はインドヒヨウであったこともわかりました。このパンフレットには、年代がないのですが、美作産業文化会館が左上に書かれていて、これは現在の津山文化センターの事です。同センターは、昭和41(1966)年1月に開館し、その後は文化センターと呼ばれているので、少なくともこのパンフレットは開館以前に作られたことがわかります。

以上からヒヨウは少なくとも昭和41年頃まではいたようで、ただいつ頃までいたかは、記録が残っておらず定かではありません。ただ、約40年前(昭和56年頃)に動物園を管理していた職員の方が、その頃にはすでにヒヨウはいなかったと証言しています。このため、ヒヨウがいた期間は、昭和

30～40年代ではないかと思われます。そのためこの絵は、ヒヨウがいた時期で、息子さんともお話ししましたが、昭和40年代に描かれたものと思われます。

平成10(1998)年には『史跡津山城跡保存整備計画』が策定され、同28年度からは第Ⅱ期計画となり、現在までにこの計画にそって備中櫓の復元、石垣修理などが実施され、津山城跡が徐々に整備されてきています。なお、この計画の中では明治の廃城後に新たに設置された既設占有物(建物や石碑など)を撤去する方針となっており、動物園も撤去に該当する占有物となりました。その後、動物も少なくなり、撤去に向けての本格的な作業が進められ、平成23(2011)年9月には惜しまれながら、60年余りの動物園の歴史を閉じました。現在は当時の園舎が撤去され更地となり、この場所は「津山城三の丸つるまる広場」と呼ばれ、様々なイベントがおこなわれるスペースとなっています。

### おわりに

1枚の動物の絵が描かれ、それが今日まで残されたことで、動物園にいたヒヨウの当時の生き生きとした様子を知ることができました。ヒヨウの当時の写真が、ほとんど白黒写真であったり、関連資料も残っていないので、この絵は当時津山にいたヒヨウを、色鮮やかに知ることができ、貴重な資料であると言えます。

註

- (1) 若生謙二1982「近代日本における動物園の発展過程に関する研究」『造園雑誌46巻1号』日本造園学会
- (2) 記事から昭和38年に来たつがいの子のため、昭和30年当時とは別のヒヨウの親子である。

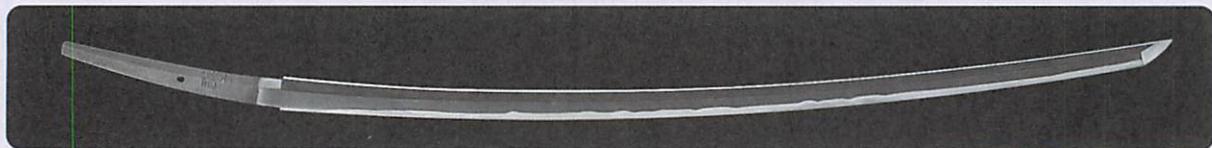
### 参考文献

- 津山市役所1953『津山市勢要覧 昭和27年度版』
- 津山市役所秘書課1954「観光」『津山市広報号外』
- 津山市役所1955「春は城山から動物は子供の友達です」『広報つやま 第4号』
- 津山市役所1957『津山市勢要覧 昭和32年版』
- 津山市役所1958『津山市勢要覧 昭和33年版』
- 津山市役所総務部1966「文化センター完成誇ろう市民の力」『広報つやま 第134号』
- 津山市役所総務部1966「鶴山のヒヨウの子生気とりもどす」『広報つやま 第142号』
- 津山市1985『津山市史 第7巻現代Ⅱ』
- 津山市教育委員会1998「史跡津山城跡保存整備計画」
- 津山市総合企画部秘書広報室2014「あの頃の津山―開園間もない津山市立動物園」『広報つやま 9月号』
- 津山市・津山観光協会「重要文化財国指定史跡津山城あんない」(製作年代昭和38～41年頃)

## 企画展「郷土の刀剣—新刀から現代刀まで—」 を開催中。

【会 期】令和4年2月19日(土)～3月21日(月)

日本美術刀剣保存協会岡山県支部津山分会のご協力をいただき、江戸時代初期、津山藩の刀工によって作られた新刀から現代の刀工によって作られた現代刀まで、郷土津山ゆかりの刀剣類を展示しています。



太刀 童子切安綱(写し)(館蔵)



大身槍(銘:作陽幕下士細川正義 天保十五甲辰年二月日)【岡山県指定重要文化財】(館蔵)



博物館だより「つはく」  
No.111 令和4年2月28日

津博  
TSUJIBOKU

〔編集・発行〕津山郷土博物館

〒708-0022 岡山県津山市山下92  
Tel (0868) 22-4567 Fax (0868) 23-9874  
E-mail tsu-haku@tvt.ne.jp

〔印刷〕 有限会社 弘文社

### 入館のご案内

〔開館時間〕 午前9:00～午後5:00

〔休館日〕 毎週月曜日・祝日の翌日

年末年始(12月29日～1月3日)・その他

〔入館料〕 一般…300円(30人以上の団体の場合240円)

高校・大学生…200円(30人以上の団体の場合160円)

65歳以上…200円(30人以上の団体の場合160円)

中学生以下・障害者手帳を提示された方は入館料が無料です